

### 人材養成等教育研究に係る目的

観光学部ではグローバル時代における観光の振興に広く貢献できる人材の養成を目指す。具体的には、現代における観光の意義と役割とその課題を的確に把握し、適切な情報の収集と分析を通して、また、異文化に対する理解を基礎に、高度な英語力を駆使してグローバル時代の観光産業と地域活性化に貢献できる人材を養成する。

そのために、グローバル時代における観光産業のあり方について、その基礎基本となる知識を体系的に学習し、そこで修得した知見を基に、幅広い観点から観光という現象の意義や役割を理解し、さらに現状の課題を社会科学的な方法論に基づいて認識しその解決策を提示できる能力を育成する。

また、グローバル時代の観光産業にあっては、インバウンド観光・アウトバウンド観光ともに、国際共通語としての英語力は必須であるとの前提にたち、その高度な運用力の修得を図るとともに、それを用いた異文化理解の深化と異文化との交流力を培うことを目指した教育・研究を行うことを目的とする。

教育課程は、「観光全般に関する知識」を体系的に修得させることと、「英語運用力」の向上を図ることを主軸として編成されている。この教育課程を通して、「人間関係構築力」「情報収集・分析・表現力」「異文化理解・対応力」「社会的責任と倫理観」「問題発見・解決力」など「グローバル時代における観光の振興に貢献できる人材」が備えるべき基礎的な資質・能力を身につけさせる。

## ディプロマ・ポリシー

観光学部では、学位授与に関しては以下のような基準が設定されている。それは、学生がカリキュラムツリーで整理した5つの分野における様々な科目を通じて身につけることが可能な知識・能力等である。そして、現代社会が観光学部卒業生に求める学士力であり、卒業後の進路が観光業界のみならず、様々な業界での活躍を夢見る学生に必須のものでもある。

- (1) 観光に関する幅広い知識を身につけ、観光という現象を多様な観点から分析することができる。
- (2) グローバル時代における観光の新たな問題を発見し、適切な情報収集とその分析を通じて、自ら解決策を考え、提示することができる。
- (3) 異文化に対する興味と関心を持ち、多様な価値観と共生することができる。
- (4) グローバル時代において、高い倫理観を持ち、日本国内並びに海外において国際観光の振興に取り組む素地を体得している。
- (5) ビジネスの現場での確かなコミュニケーションをとることが可能となる高度な英語運用力を修得している。